

令和元年度日本海ソデイカ(あかいか)漁況情報(中短期予報)-確定版-

* 但馬地域の沿岸漁業にとって重要な対象種となっている「ソデイカ(あかいか)」について、現況と中短期的な漁況予報をお知らせします。操業の参考にできれば幸いです。

現況と見通し(予報対象期間:令和元年10月中旬~11月)

【現況:10月上旬まで】

- ・ 漁況指標値(香住支所の1日1隻あたり漁獲量)は、9月中旬までほぼ漁獲がなく、9月下旬に90kg、10月上旬に85kgと低調である。(過去5年平均と比べて約1ヶ月遅れで推移)
- ・ 漁獲物のサイズは、10月上旬時点で胴長50cm台後半~60cm台後半が主体。(体重6~14kg)

【今後の漁況予報】

- ・ 現況では但馬沿岸への漁況指標値は低調であり、過去の傾向から本格的な漁期に入る9月の水準が低調な場合は漁期後半も引きずることが多く、長期漁況予報の来遊指標値155kg前後(前年漁期と同程度)を下回る可能性が高い。
- ・ 今後の漁獲サイズは現在の漁獲主体が成長した胴長60cm台中盤~70cm台中盤のものが中心になると考えられる。
- ・ 小型サイズの群れの加入の兆候がみられ、順調に加入が増えて成長することで、今漁期後半から終盤にかけての漁獲の主体につながる見込みがある。
- ・ 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しの規模は「平年並み」、接岸距離は「やや接岸」で経過する見込みである。冷水域の中心部は若狭湾沖合にあり、漁期後半は衰退傾向していく見込み。
- ・ 好漁場の指標となる水深50m深の19℃等温線の配置は11月以降岸側に狭まるが、水深100mの15℃等温線の概ね沖合に広く分布し、イカの分布は沖合まで分散すると考えられる。

※日本海西部海域の海況予測には、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産総合研究センター日本海区水産研究所の拡張版日本海海況予測システム(JADE2 <http://jade2.dc.affrc.go.jp/jade2/>)を利用しました。

1. 漁況の推移(図1)

漁況の指標としているJF但馬香住本所の1日1隻あたりの漁獲量(旬別平均値)は、9月中旬までほぼ漁獲がなく、9月下旬は90kg、10月上旬は85kgで推移しています。

但馬沿岸での漁模様は低調であり、来遊指標は過去5年平均と比べて約1ヶ月遅れて推移しています。

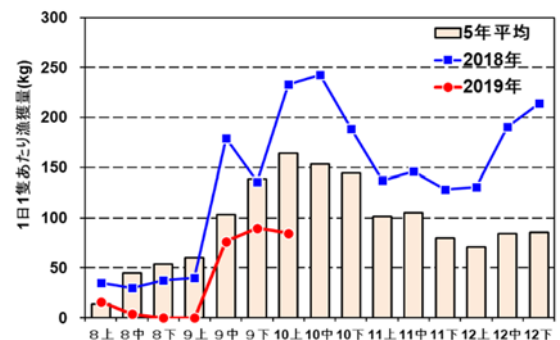


図1 旬別1日1隻あたり漁獲量の推移

2. 漁獲物組成の推移(図2)

JF但馬香住支所での市場調査の結果、9月下旬で50cm台後半(6~8kg)~60cm台前半(7~10kg)が主体でした。

10月上旬は、胴長50cm台後半~60cm台後半(10~14kg)のものが漁獲の主体であり、今後もこの群が成長しながら漁獲の中心になるものと考えられます。

例年、10月頃に別の小型サイズの群が加入してきますが、現況では20cm~40cm台の小型サイズも少ないながら見られます。この加入が順調に続いて成長することで、今漁期後半から終盤にかけて漁獲の主体となることが見込まれます。

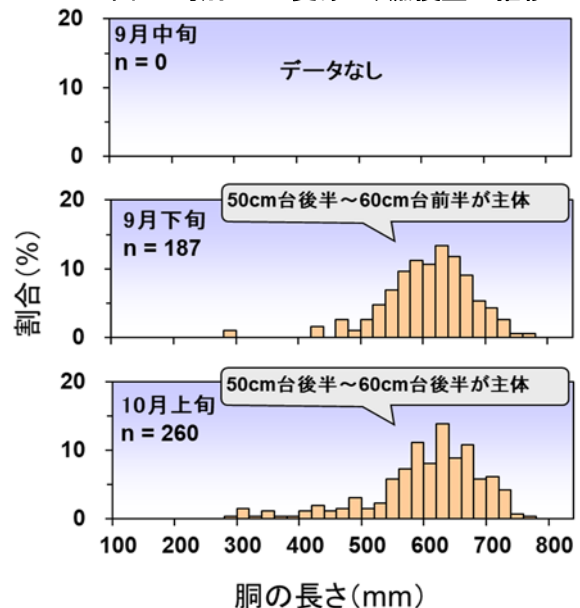


図2 漁獲物の体長組成

3. 漁場環境の推移 (図3)

これまでの調査により、好漁場は水深 50m の水温が 19℃以上、水深 100m の水温が 14~15℃以上の海域に形成されることが分かっています。また、この時期の山陰沖漁場の水温は、季節的な変動よりも沖合部に出現する冷水域の動きに大きく影響されます。

今漁期の 50m 深、100m 深の水温の変化を「拡張版日本海海況予測システム(JADE2)」により予測しました(図3)。

- ・太い赤線(50m 深の 19℃、100m 深の水温 15℃)示した等温線よりも水温の高い海域が「好漁場」となる可能性のある海域です。
- ・若狭湾沖に冷水域がありますが、漁期後半に向けて衰退傾向にあります。これが今漁期の漁場形成に影響を及ぼすことが考えられます。

【10月上旬】(図3上段)

- ・若狭湾沖の北緯 37° 付近を中心に冷水域が存在していました。
- ・但馬沖の 50m 深では、水温 19℃以上が沖合まで広く分布していました。
- ・但馬沖の 100m 深では、水温 15℃の等温線が冷水域の周囲に分布し、南縁は北緯 36° 30 付近にありました。

【10月中旬】(図3中段)

- ・以前として北緯 37° 20 付近を中心に冷水域があると予測されます。中心部の水温はやや高くなりますが、やや岸側へ張り出す見込みです。
- ・但馬沖の 50m 深では、水温 19℃以上が沖合まで広く分布しており、100m 深では水温 15℃以上が冷水域を除いて広く分布するものと予測されます。

【11月中旬】(図3下段)

- ・北緯 37° 30 付近の冷水域の中心部の水温は 100m 深でも 10℃以上と高く、衰退が予測されます。
- ・但馬沖の 50m 深では、水温が低下し 19℃以上の分布域はかなり沿岸寄りに迫っていますが、100m 深では引き続き水温 15℃以上が沖合まで広く分布するものと予測されます。

冷水域や暖水域の影響により、海域によっては海流の向きに大きな変化(速い逆潮等)が生じる場合がありますので、作業時にはご注意ください。海流の予報については、当センター発表の「海の天気図」(図4)や「センターだより(海況情報)」もご参照下さい。

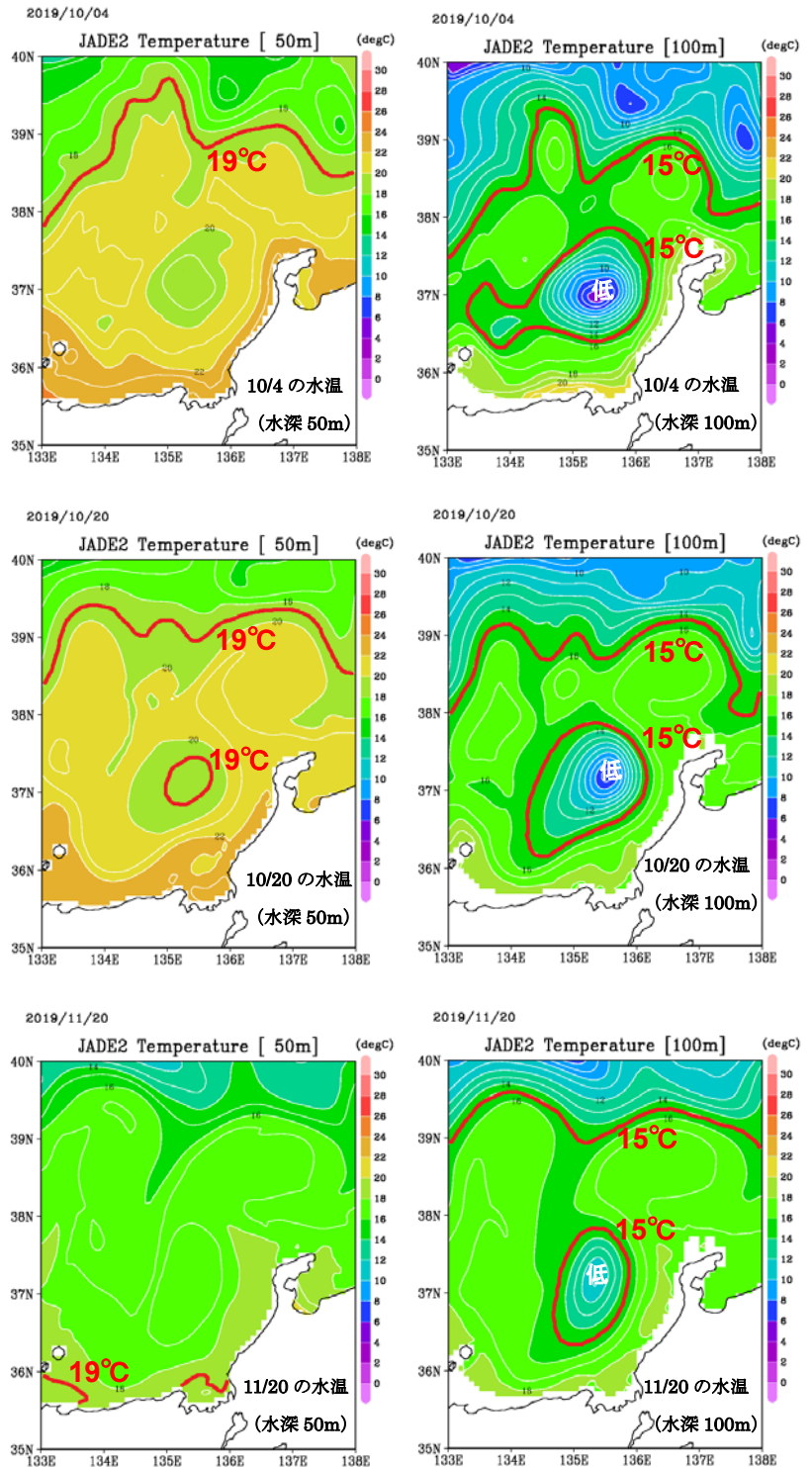


図3 水深 50m(左)、水深 100m(右)の水温分布予測(10/4 は再現図)
(太線:50m 深における 19℃等温線、100m 深における 15℃等温線)

4. その他

最新の日本海沿岸の海況予報

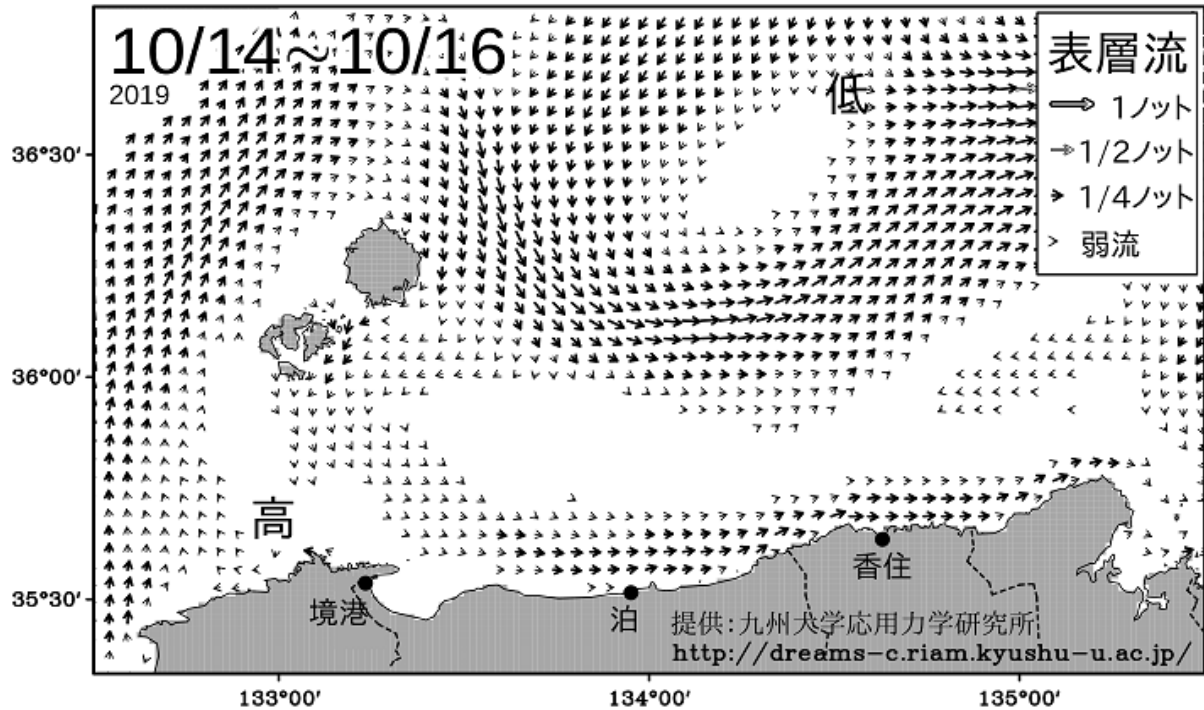


図4 「海の天気図」の一例*

*10月10日に公開した10月14~16日の予測
(次回、10月21~23日の予測は10月18日公表予定)